

自動運転実証運行の取組状況について

令和6年度第2回生活交通会議

都市整備部

資料 3

交通政策課

1 事業の背景

運転手不足が深刻化し、持続可能な地域交通の確保が急務となっている中、全国各地で自動運転技術を活用した移動サービスの実証実験が行われています。

本市においても、令和3年に「鳥取市次世代モビリティ推進会議」を立ち上げ、同年に鳥取砂丘周辺エリアで、令和6年2月には市街地エリアで自動運転バスの実証運行を実施するなど、公共交通の自動運転化に向けた取組を進めています。

2 事業の目的

中心市街地において自動運転車両の実証運行を行い、自動運転にかかる課題を抽出し、社会実装に向けた更なる検証を行うとともに、市民や関係者等に自動運転技術を体感していただき、自動運転についての理解を深めていきます。

3 事業の内容

自動運転バスの実証運行

- 実施期間 令和6年12月予定
- 運賃 無料
- 事業主体 鳥取市
- 運行管理者 WILLER株式会社
- 運行事業者 日ノ丸自動車株式会社、日本交通株式会社

4 総事業費 80,000千円

事業費内訳 初期費用（データ・アプリ作成、信号連携等） 42,500千円
運用費用（車両リース、システム保守、労務費等） 37,500千円
国の「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（補助率10/10）」を活用

5 前回実証実験との変更点

- (1) 若桜街道～鹿野街道を周回するルートに変更
(前回：鳥取BT→若桜街道→城跡周辺→若桜街道→鳥取BT)
- (2) 信号機との連携（9か所予定）
- (3) 途中乗降できる停留所を設置（複数箇所で調整中）

◆運行計画

- ・対象路線：くるり運行路線を基に中心市街地内を周回するコース
- ・走行距離：ルート4.8km
- ・所要時間：約30分
- ・自動運転レベル：レベル2
(使用車両はレベル4相当)

※原則自動運転にて走行し、必要に応じて手動操作による運行を実施。

- インフラ連携（路車協調システム）を併せて実証外部カメラによって車体の死角となる箇所の映像を車載モニタへ表示し、運行を支援

- 左折メインの循環コースでの自動運転率を検証
- 夕方時間帯の走行、バス停での乗降など新たな検証
- 鹿野街道方面も走行することで、より広く社会受容性の向上を図る



＜使用車両＞

- 車両タイプ
EVバス 1台
- 自動運転レベル
レベル4相当（実証時：レベル2）
- 最高速度
70km/h（実証時：35km/h）
- 定員
25人（試乗時：11人）